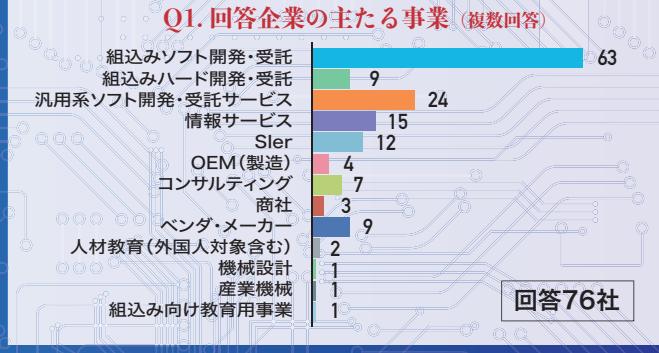


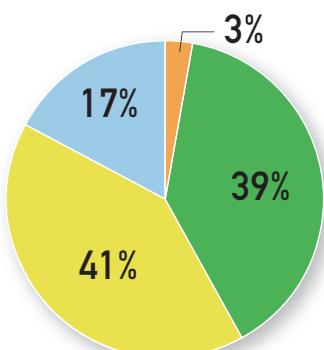
業界2026年の見通し

2025年は「AIの一年」だったとも言える。大規模言語モデル(LLM)により生成AIはますます高精度な処理が可能となった。すでに“次なるAI”と目されるフィジカルAIも実用化レベルに達しつつある。2026年は物理世界での本格的な具現化が予測される。テクノロジーと社会が激しく交差するなか、業界の景気動向をどう捉えるか、会員へのアンケートから紹介する。

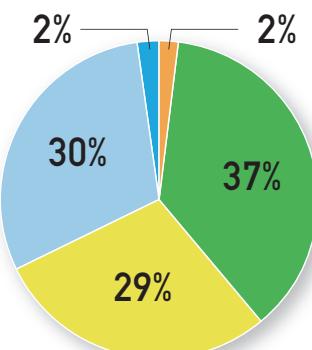


2025年を振り返って

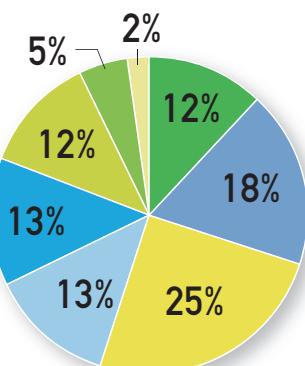
Q2-1. 2025年の貴社の業績はいかがでしたか？



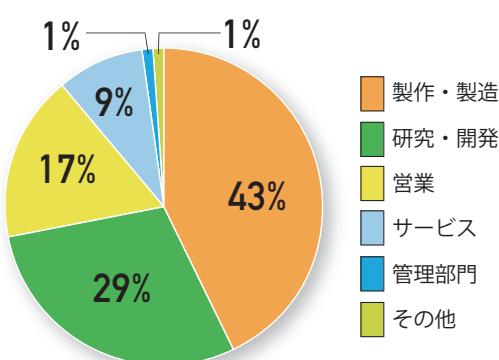
Q2-2. 前年と比較して2025年の業績は？



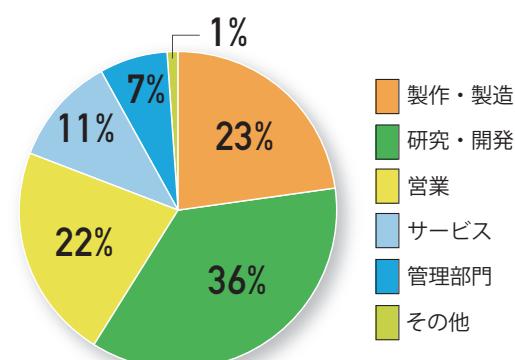
Q3. 2025年業績の伸び率は？



Q4-1. 業績に貢献した部門は？（複数回答）



Q4-2. 今後補強したい部門は？（複数回答）

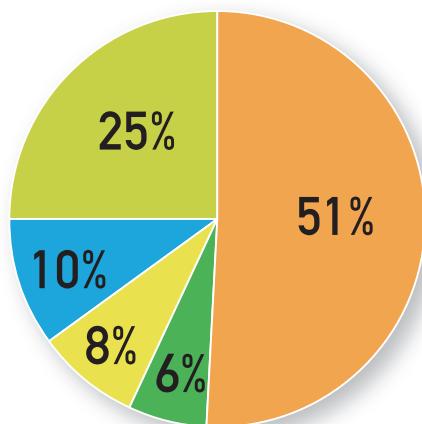


2025年の業績が“良好”(非常に良かった/良かった)だった企業は42%(Q2)。前回アンケートの業績予測で良好と見立てた回答(45%)からはやや減少。前年比較で「悪かった」が30%あり、期待値に届かなかつた企業が多くなったようだ。業績マイナスとなった企業が19%と前回より8ポイント増える結果となっている。業績に貢献した部門(Q4)は「製作・製造」が43%を占めた。

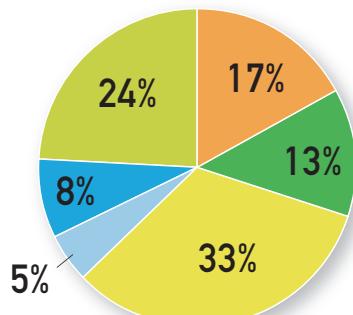
Q5. 業績への影響は?

- 人材不足
- 円安あるいは円相場の乱高下
- 物価高
- 半導体不足
- 米中貿易摩擦
- その他

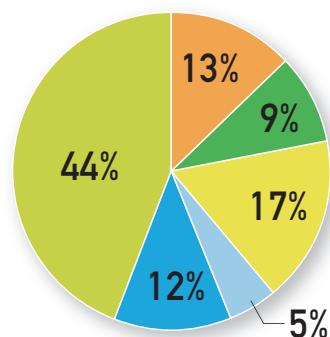
Q5-1. 最も業績に与えた影響が大きかった出来事は?



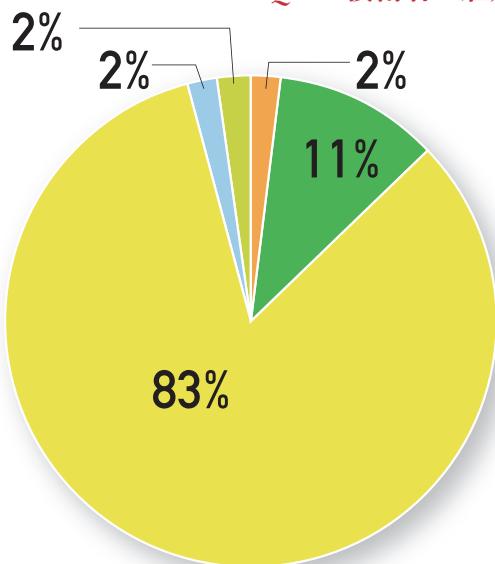
Q5-2. 2番目に影響が大きかった出来事は?



Q5-3. 3番目に影響が大きかった出来事は?



Q6. 技術者の雇用状況は?

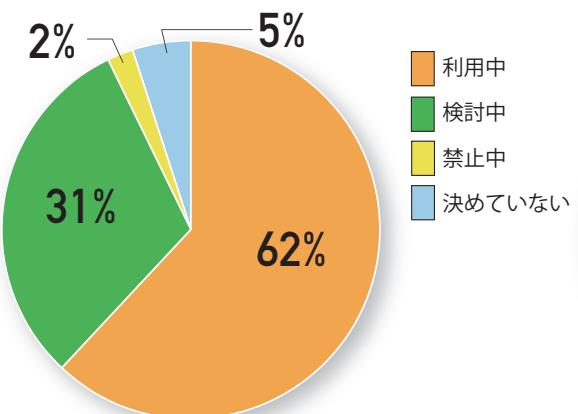


- 過剰
- 適正
- 不足
(積極的に採用していく)
- 不足
(採用は控える)
- その他

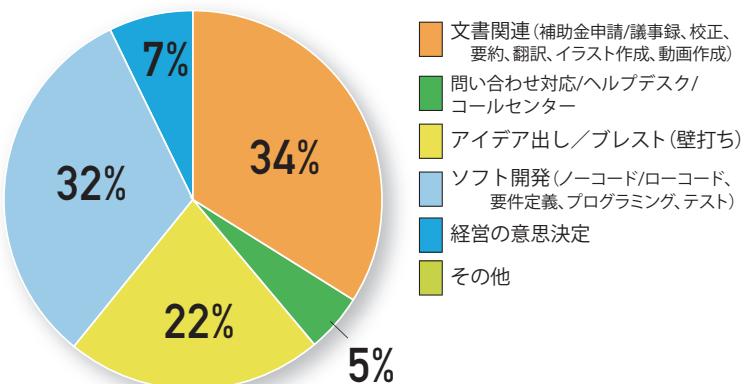
業績に最も影響した要因(Q5)として「人材不足」が最多(51%)だが、前回(69%)からは大きく減少している。3番めまで全体を通して見ると変わらず「物価高」の割合が多いが、次に続いたのが「米中貿易摩擦」。いわゆる"トランプ関税"が日本経済に大きな影響を及ぼしたが、特に大きな打撃を受けた自動車業界に関連する企業も多いことから数値となって表れたようだ。

技術者雇用(Q6)は「不足(積極的に採用していく)」の回答が83%。前回の74%から増えているが、割合は2年前(2024年1月発行号)の結果(86%)に近い。その前年は生成AIが爆発的に普及した年だった。大きな技術進化が起きている点では、似たような傾向が感じられる。

Q7-1. 生成AIの利用は?



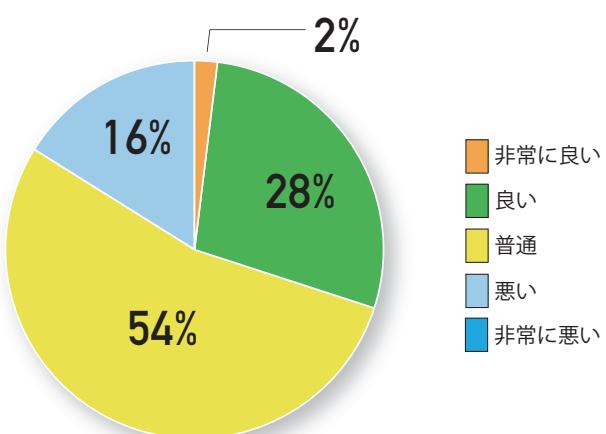
Q7-2. 生成AIは何に使う? (複数回答)



生成AIは「利用中」が前回の48%から半数超えの62%まで増加した。用途では「ソフト開発」が前回26%から32%に増え、「文書管理」とほぼ同じ割合になった。

2026年の景況予測

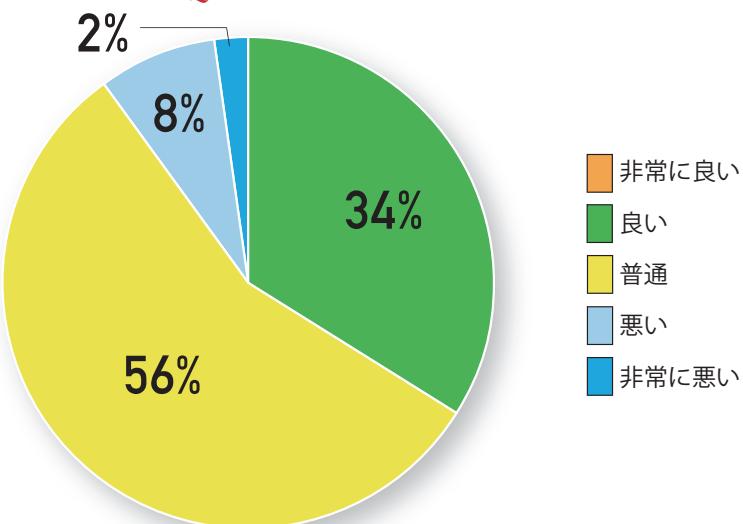
Q8-1. 2026年組込みシステム関係の景況は?



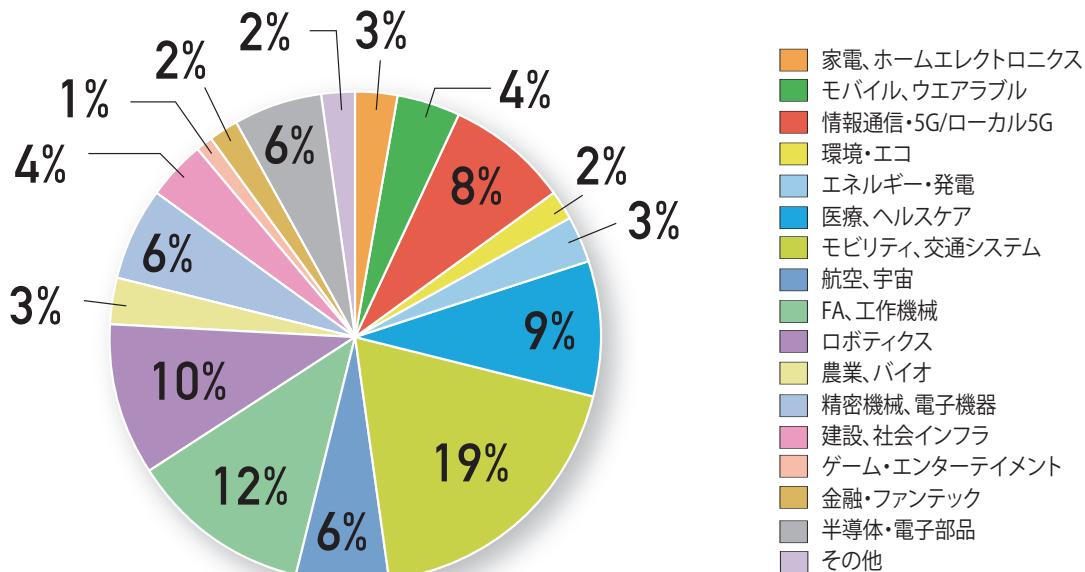
Q8-2. 景況の見立て、その理由は?

- 「非常に良い」理由：人手不足による効率化に伴う工場DX化が促進
- 「良い」理由：車、家電とも先行投資意欲が続く／Edge AIが拡大／円安によりメーカーの業績が良く組込みシステムに投資／生成AIの活用による開発規模増加／AI化とセキュリティ強化が拡大／オートモーティブ領域を中心にビジネス規模拡大／AIにより開発が効率化／SDxへの移行およびフィジカルAIの立ち上がりに対する投資の活発化 など
- 「普通」理由：技術者余りや車載関連の低迷で楽観できない／組込みシステム全体がコモディティ化／設備投資に大きな変化がない／生成AIによりプログラミング作業は激減するがより効果的なシステム開発の需要がある／企業の投資意欲が満遍なく向上していない など
- 「悪い」理由：トランプ関税による車載業界の予算縮減／生成AIによる破壊／モビリティの状況悪化／人件費高騰、部品価格高騰／開発予算、人材育成予算が減少 など

Q9. 2026年の貴社の業績は?



Q10. 成長を期待する分野は？（複数回答）



2026年の業界の景況(Q8)は「普通」とする回答が半数超えの54%に。「非常に良い」「良い」との回答は30%と前回48%から大幅に減少。「悪い」の回答も16%と前回の9%から倍近くに増えており、少々寂しい結果となった。エッジAIなどの普及と相まって、開発案件につながるか、まだ不透明と感じるかで回答が異なっているようだ。

企業単位での業績予測(Q9)でも同様の割合となっている。「普通」が過半数の56%と最も多い回答となった。「非常に悪い」との回答もあり、「悪い」と合わせ2桁の10%となつたのは気になるところだ。

成長を期待する分野(Q10)には「モビリティ、交通システム」が最も多い19%。「FA、工作機械」(12%)「ロボティクス」(10%)が前回より増え2桁となつた。

Q11. 2026年貴社にとってのキーワードは？（抜粋）

■キーテクノロジー、応用分野関連

- Edge AI ● DevOps ● SDV ● インフラ点検
- 防衛、宇宙開発 ● セキュリティ ● ナレッジビジネス
- モビリティ (SDV、OTA) ● FA/IoT (EdgeAI制御)
- モデリング ディペンダビリティ

■自社の環境改善・意識改善、新戦略

- 生成AIによる開発、生産性向上 ● 主体性と共に創
- コア技術の深耕 ● すべてのヒト、モノ、コトに信頼を
- 三方よし ● 事業規模の拡大
- 人月から価値へ、AIを使う会社へ
- 優秀人材の獲得、従業員の成長
- 社会のデジタル化への貢献 ● SDGsの達成 ● ESG経営
- 高付加価値ソリューションの提供
- 社会課題解決型商品の開発

Q12. 協会事業活動に対する意見・要望（抜粋）

- 「組み込み技術そのもの」がより際立ち社会的に注目される取り組み
- 日本での組込みシステム技術誕生と共に設立した協会として歴史を重んじ進化を続ける団体に
- 慢性的な人手不足など課題対策について各社の情報展開を
- ビジネス創出の重要プロセスを学べる研修の開催
- ビジネスを主体とした要素技術の勉強会
- メーカー間の横連携につながる事業活動
- 要件定義技術者の育成プログラムのWebセミナー
- ミドルステージ戦略委員会に期待
- ETSS改定への着手 (ETECのスキル標準の陳腐化を懸念)